

「京都市環境基本計画 2026-2030」（案）への主な意見の内容と本市の考え方について

意見募集結果

1 応募者数及び御意見数

応募者数：76名 御意見数：140件

<参考>パブリックコメント全体の応募者数：254名

2 御意見をいただいた方の属性

ア 居住地

区 分	応募者数 (名)	割 合 (%)
① 京都市内在住	52	68
② 京都市外在住 (市内に通勤・通学)	3	4
③ 京都市外在住 (②以外)	10	13
④ 無回答	11	14
合 計	76	100

※四捨五入の関係で%の合計が合わない。

イ 年齢

区 分	応募者数 (名)	割 合 (%)
① 20歳未満	3	4
② 20歳代	18	24
③ 30歳代	12	16
④ 40歳代	12	16
⑤ 50歳代	15	20
⑥ 60歳代	4	5
⑦ 70歳以上	1	1
⑧ 無回答	11	14
合 計	76	100

3 御意見の内訳

項 目	意見数 (件)
ア 第1章について	8
(ア) 基本理念	4
(イ) 基本的事項 (位置付け・計画期間)	4
イ 第2章について	33
(ア) 目指す将来像	8
(イ) 環境行政の方針	11
(ウ) 環境指標	14
ウ 第3章について	51
(ア) 施策体系	10
(イ) ひと・しくみづくり	33
(ウ) その他	8
エ 第4章について	2
オ 計画全般・その他の意見	46
合 計	140

ア 第1章に対する意見（8件）

(ア) 基本理念（うち4件）

主な御意見	本市の考え方
<ul style="list-style-type: none"> 基本理念について、内容は計画策定の趣旨を述べているため、表題を変更してはどうか。基本理念として記載するならば、京都市環境基本条例第3条の基本理念の規定を参照して整合させることが必要だと考える。 「自然」という言葉の意味と「環境」という言葉の意味を明確に示す必要がある。京都基本構想を機に、自然という言葉の意味も含め、整理いただきたい。 計画の位置づけとして「京都基本構想」ではなく、京都市の都市理念である「世界文化自由都市」から説き起こすべき。 など 	<p>本計画の基本理念は、計画策定の前提として踏まえるべき基本的な理念を、京都市環境基本条例第3条（基本理念）の規定と齟齬のないよう、記載しています。</p> <p>計画本冊内の目指す将来像「自然への畏敬と感謝の念を抱けるまち」についてのコラムで補足説明いたしました。</p> <p>計画の位置づけについて「京都基本構想」が「世界文化自由都市宣言」の系譜を継ぐものであるということを明示しました。</p>

(イ) 基本的事項（位置付け・計画期間）（うち4件）

主な御意見	本市の考え方
<ul style="list-style-type: none"> 計画期間が短期間だと思った。 計画が個々にある必要性がわからない。個々に計画を定めるか、基本計画一本にするかどちらかにしてほしい。 など 	<p>計画期間は、SDGsの目標年次であり、また、環境分野の個別計画が目標とする2030年度までの期間としました。御意見については、今後の計画改定における検討の参考とさせていただきます。</p> <p>環境分野には3つの分野（脱炭素社会・自然共生社会・循環型社会）があり、それら分野を横断する施策・取組を環境基本計画が掲げています。御意見については、今後の計画改定の検討の参考とさせていただきます。</p>

イ 第2章に対する意見（33件）

(ア) 目指す将来像（うち8件）

主な御意見	本市の考え方
<ul style="list-style-type: none"> 将来像「自然への畏敬と感謝の念を抱けるまち」が分かりにくい。 3分野の統合と将来像の具体化を同時に図っているのは良いと思うが、この関係をもう少し打ち出すべきではないか。 P3「環境分野の各個別計画が目指す長期的な姿」に 	<p>コラムで補足説明いたしました。</p> <p>環境基本計画では、京都基本構想に掲げる「自然への畏敬と感謝の念を抱けるまち」を2050年の将来像として掲げ、その実現に向けては、「生物多様性保全」だけでなく、人間と</p>

<p>3計画が掲載されているが、P1のイメージ図にある「環境分野の個別計画・指針」と整合していない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「自然への畏敬と感謝の念を抱けるまち」は、私たちの行為で世界の自然が損傷し続けたとしても、畏敬と感謝さえ感じていれば良い、と誤解されそうな表現となっている。1つのキーワードで示すのはもう限界であり、主要な欠かすことのできない環境方針の方向性が読めるようなものにすべき。 ・将来像は2050年という具体的な年限を設定したのは評価できる。 ・現在の子ども・若者が生をまっとうするまで視野に入れて考えるほうが望ましい。3世代先、2100年の将来像を示すべき。 <p style="text-align: right;">など</p>	<p>生態系へのリスクとなる気候変動に対応していく「地球温暖化対策」や、自然界に「ごみ」がないように、人間社会も資源を使い捨てにせず、循環して利用していくという「資源循環」も不可欠であり、3つの分野（3計画）の目指す長期的な姿が同時実現してはじめて将来の姿がすべて成り立つことにつながります。環境基本計画は、それらを包括する計画となっているため、京都基本構想の理念や3計画の内容に加えて、3つの分野（3計画）の目指す長期的な姿の同時実現に向けての分野横断の取組を記載しています。</p> <p>将来像については、コラムで補足説明もいたしました。</p> <p>本計画は、今後の四半世紀を展望する京都基本構想に基づき策定する分野別計画であるため、2050年を見据えた将来像を掲げています。御意見については、今後の計画改定における検討の参考とさせていただきます。</p>
---	---

(イ) 環境行政の方針（うち11件）

主な御意見	本市の考え方
<ul style="list-style-type: none"> ・P3「基本方針」にある「環境分野にとらわれず、他の分野とも連携」とあり、とても良いと思った。環境分野こそ各行政分野に横軸を刺し、横断型で取り組む分野と思うため、是非、行政分野全体が最適となるように取り組む方針を明確に、強く打ち出していきたい。 ・もっと京都市らしさを滲みだすため、例えば、観光とのつながりをもう少し記載してはどうか。 ・ウェルビーイングの部分に記される「将来」の視点をもっと強調すべきである。また、「将来世代のウェルビーイングと現在世代のウェルビーイングを同時に高めていくためにはどうするか」も模索することが必要ではないか。 ・P4の計画策定・推進に当たってのポイントにおける 	<p>観光や都市計画等、環境以外の分野と連携を図りながら、京都経済の発展や地域の活性化等につなげていく取組を進めてまいります。</p> <p>環境と観光について、コラムでも補足説明いたしました。</p> <p>「ウェルビーイング」は、身体的にも精神的にも健康な状態を指します。将来に向けた良好な環境の創出や、人と環境との良好な関わり（環境への前向きな取組など）を進めることでウェルビーイングの向上につなげていくことを、コラムでも説明いたしました。</p>

<p>「一層の分野間連携」について、①環境の諸課題の連携、②環境以外の分野との連携に分けるべき。</p> <p>これに加えて「健康・福祉、子育て・教育などの分野との連携で、ウェルビーイングの推進」も記述すべき。また「経済の成長」は成長率といった数値をめざすような誤解を招きがちであり、「経済の発展」のほうが適切である。</p> <p style="text-align: right;">など</p>	<p>「一層の分野間連携」について、文章の段落を分ける等の工夫により、環境分野間の連携なのか、環境以外の分野との連携なのか分かるよう、修正しました。</p> <p>また、環境はより多くの分野と関連することから、特に観光や都市計画は関連性が強い分野であることが分かるよう、文章を修正しました。</p> <p>「経済の成長」については、地球温暖化対策計画との整合を踏まえ「経済の発展」に修正いたしました。</p>
--	--

(ウ) 環境指標（うち14件）

主な御意見	本市の考え方
<ul style="list-style-type: none"> ・ P5「環境指標」がそもそも何なのかが分からない。京都市の「環境」全体を測るものなのか、計画の進捗を測るものなのか、補足が必要ではないか。 ・ P5「主観的指標」の最後に「各分野の指標（脱炭素社会・自然共生社会・循環型社会など）」とあるが、環境基本計画という環境分野全体の指標であるため、あえて区分する必要があるのか。 ・ P5「環境指標」はP3の「将来像」や「方針」を踏まえて設定しているのか。P7以降に施策体系などが後述されており、それらと関連する指標が多いように見受けられるため、その後ろに記載してはどうか。 ・ P6「客観的指標」に「プログラム参加者数」「サイト閲覧数」とあるが、単に数を追うのではなく、その質を測ってはどうか。また、「ひと・しくみづくり」の取組の結果ではなく、その成果として、人材育成された人の活躍や行動変容の状況を測る方がよいのではないか。 ・ 「エシカル消費について知っていますか」について、言葉の認知度を測るよりは、実践度を測るべく「エ 	<p>計画の進行状況の点検・評価を行うための環境指標であることが分かるよう、環境指標の説明文を修正しました。</p> <p>環境基本計画の将来像は、環境分野の個別計画が目指す長期的な姿が同時に実現して初めて成り立つものであるため、脱炭素社会・自然共生社会・循環型社会などの同時実現に向かっていくかを、環境基本計画として把握する必要があると認識しています。</p> <p>環境指標については、将来像を目指すため、また、環境行政の方針として、分野連携（分野横断）やウェルビーイングの向上につなげるため、第2章に記載しています。</p> <p>「客観的指標」だけでなく「主観的指標」や市民アンケート調査も合わせ、質も含めた状況の把握に努めてまいります。</p> <p>環境指標については、将来像を目指すため、また、環境行政の方針として、分野連携（分野横断）やウェルビーイングの向上につなげるため、審議会・部会の意見を踏まえ設定しています。御意見については、今後の指標見直しにおける検討の参考とさせていただきます。</p> <p>「エシカル消費を心がけていますか」に修正しました。</p>

<p>シカル消費を心がけていますか」「エシカル消費を 実践していますか」などの方が良いと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「モニタリング指標」について説明が必要ではないか。 ・主観的指標の質問が洗練されておらず、意図をはかりかねる表現となっており、誤解が発生する。 ・主観的指標はあくまで主観であり、重み付けについて考慮する必要がある。客観的指標については、市保全基準など基準のあるものは、基準設定の根拠や目的を考慮して目標値や達成時期を検討すればよいと思う。 <p style="text-align: right;">など</p>	<p>注釈で「モニタリング指標」について説明を追加しました。</p> <p>主観的指標については、将来像を目指すため、また、環境行政の方針として、分野連携（分野横断）やウェルビーイングの向上につなげるため、審議会・部会の意見を踏まえ設定しています。</p> <p>また、第4章に記載のとおり、計画の進捗状況の点検・評価のため、環境指標（主観的指標、客観的指標）の適宜見直しを行っていくこととしています。</p>
---	---

ウ 第3章に対する意見（51件）

（ア）施策体系（うち10件）

主な御意見	本市の考え方
<ul style="list-style-type: none"> ・公害や産業廃棄物の対策も失念してはならない。これらの記載についても、環境基本計画でしっかりととりあげるべき。 ・環境基本計画にも1.5度目標について明記してほしい。 ・理念は京都基本構想と、体系は他3計画と内容が同じであるため不要だと思う。環境基本計画で取り上げるのは、他3計画以外の内容であるべきではないか。 <p style="text-align: right;">など</p>	<p>「安心・安全な生活環境の保全」及び「適正処理の確保に向けた持続可能なごみ処理体制の確立」は、人の健康・くらしを守るという点において、環境行政の原点として位置付けられ、脱炭素社会、自然共生社会、循環型社会の基盤と認識しています。そのため、計画本冊の基本方針に明記しております。</p> <p>1.5℃目標については、環境基本計画においては、第1章「環境基本計画について」の03.京都市の環境を取り巻く現状及び課題に記載しました。</p> <p>「自然への畏敬と感謝の念を抱けるまち」を2050年の将来像として掲げ、その実現に向けては、「生物多様性保全」だけでなく、人間と生態系へのリスクとなる気候変動に対応していく「地球温暖化対策」や、自然界に「ごみ」がないように、人間社会も資源を使い捨てにせず、循環して利用していくという「資源循環」も不可欠であり、3つの分野（3計画）の目指す長期的な姿が同時実現してはじめて将</p>

	<p>来の姿がすべて成り立つことにつながります。環境基本計画は、それらを包括する計画となっているため、京都基本構想の理念や3計画の内容に加えて、3つの分野（3計画）の目指す長期的な姿の同時実現に向けての分野横断の取組を記載しています。</p>
--	---

(イ) ひと・しくみづくり（うち33件）

主な御意見	本市の考え方
<p>(環境教育・学習を通じた理解と行動の促進及び人材育成に対する意見)【6件】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若者（大学生）が環境を意識した取組や、その先の次世代（小学生から高校生まで）の方まで幅広く学校の授業の中で環境を意識する取組があっても良いと思う。 ・出前講座をもっと多く実施していただきたい。 ・市民だけではなく学生や観光客も含め環境に配慮した行動変容が無理なく行える施策に期待する。 ・環境活動助成金の復活、コーディネート機能の整備など、市民の自発的な環境学習や環境保全活動を後押しする仕組みを充実してほしい。 <p style="text-align: right;">など</p>	<p>京都市教育委員会と連携することはもとより、「京エコロジーセンター」や「さすてな京都」といった環境学習施設を連携させ、最大限活用するなど、家庭、学校、職場、地域その他のあらゆる場において、環境とのつながりや、環境保全についての理解を深めるための環境教育・学習を、ライフステージに応じて系統的かつ統合的に推進してまいります。</p> <p>各主体（滞在者（観光客等）を含んだ）の役割や、具体的行動と効果を分野横断的に掲げる「主体別指針」を策定します。</p> <p>また、より多くの方に環境に資する行動をとり、環境保全の取組に参加するためには、自らの行動の成果を実感することや、場合によっては、インセンティブ（動機付け）を付与することで、行動を促進することも必要になります。そのため、市民や滞在者の皆様が楽しみながら、また、事業者の皆様には環境に配慮した事業活動が事業の継続発展につながることを感じて、行動するよう、インセンティブや効果の実感を意識した取組の検討を進めてまいります。</p>
<p>(各主体の行動と効果の明確化に対する意見)【6件】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海外の方に、ゴミをポイ捨てしないことや分別して捨てるといった当然のマナーをしっかりとっていただくことが重要である。 ・ごみの削減について、市民だけでなく、観光客に対しての方策も示してほしい。 ・自分たちの生活の中でも物を買って使い捨てにした 	<p>各主体（滞在者（観光客等）を含んだ）の役割や、具体的行動と効果を分野横断的に掲げる「主体別指針」を策定し、皆様に読んでいただくため、周知啓発に努めてまいります。</p> <p>また、より多くの方に環境に資する行動をとり、環境保全の取組に参加するためには、自</p>

<p>り、安い服を買ってすぐ捨てるようなことをやめな いといけない。自分たち一人一人に何ができるのか をたくさんの人にアピールしてほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「主体別指針」においては、みんなできる最低限の行 動というものよりは、努力しないとできないような 難しいものや、自分に合えば実施したらよいような ものも掲げたらどうか。 <p>(例：こどもエコライフチャレンジの「へらす」「えら ぶ」「きりかえる」)の「えらぶ」などを積極的に入 れる)</p> <p style="text-align: right;">など</p>	<p>らの行動の成果を実感し、場合によっては、イン センティブ（動機付け）を付与することで、 行動を促進することも必要になります。その ため、市民や滞在者の皆様が楽しみながら、ま た、事業者の皆様には環境に配慮した事業活 動が事業の継続発展につながることを感じ、 行動するよう、インセンティブや効果の実感 を意識した取組の検討を進めてまいります。</p> <p>これら取組については、本市からの情報発 信に加えて、各主体による情報発信を促進し てまいります。</p>
<p>(行動につながるインセンティブに対する意見)【5 件】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成果が実感できない、利便性が低下する、経費が余 分にかかる等、モチベーションの維持につながら ないことがあると思うが、考えが根付くように、これ からも啓発を続けていって欲しい。 ・市民等を巻き込んで、ポジティブな（何かを制限し たり、犠牲にしたりするのではない）対策を実行し てほしい。 ・関心のない層は情報を目にしてもあまり印象に残ら ないと思うため、環境に一つでも良いことをすれば 目に見えて分かるような結果がすぐに得られる、市 バス・地下鉄乗車料などで利用できるポイントが貯 まるなどがあっても面白いのではないか。 <p style="text-align: right;">など</p>	<p>各主体の役割や、具体的行動と効果を分野 横断的に掲げる「主体別指針」を策定します。</p> <p>また、より多くの方に環境に資する行動を とり、環境保全の取組に参加するためには、自 らの行動の成果を実感し、場合によっては、イン センティブ（動機付け）を付与することで、 行動を促進することも必要になります。その ため、市民や滞在者の皆様が楽しみながら、ま た、事業者の皆様には環境に配慮した事業活 動が事業の継続発展につながることを感じ、 行動するよう、インセンティブや効果の実感 を意識した取組の検討を進めてまいります。</p>
<p>(環境を考えた社会経済のしくみづくりに対する意 見)【7件】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「サーキュラーエコノミー」について、循環分野で全 く言及がないことに違和感がある。 ・「環境を考えた社会経済の仕組みづくり」について、 サーキュラーエコノミー等に加え、ESG 投資など持 続可能性と調和した金融活動について記載し、投資 家や金融機関の責任を強調する必要がある。 ・特にサーキュラーエコノミーへの移行促進に力を入 れていただきたい。 	<p>サーキュラーエコノミーについては、世界 的潮流であるため、第1章にコラムで補足説 明いたしました。</p> <p>金融活動についての記載を追記しました。</p> <p>サーキュラーエコノミーをはじめ、エシカ ル消費、地産地消など、環境に配慮した消費生 活や経済活動が重要になってきていることを 発信するとともに、環境マネジメントシステ</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・土地利用の種類とは、具体的に何を示しているのかわかりにくい。 <p style="text-align: right;">など</p>	<p>ムの活用など、環境に資する事業活動が事業の継続発展につながっている事例の創出に取り組んでまいります。</p> <p>コラムで補足説明いたしました。</p>
<p>(情報コミュニケーションの促進に対する意見)【9件】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・京都は学生の町なので、学生参加型での企画があっても良いと思う。 ・大学や企業との連携を強め、市が議論できるプラットフォームを形成し、議論する場を創出することを掲げ、続けてほしい。 ・目指すところに到達するためには、これまで以上にあらゆる人を巻き込んで取り組みを進めていくことが必要だと感じている。 ・どんな行動がふさわしいかを考えた市民が、行政に対して出した意見を、行政が聞いて検討するということを保証する意味での「参加」が必要である。意見を述べて行政と考えを作り上げていき、よりよい環境を目指していくという意味で、審議会答申でも「参加」の大事さは示されていたと思うが、「参加」の仕組みづくりではそれが読み取れない。 ・市民参加については、取組への参加だけではなく、政策立案段階からの参加を求めることが効果的である。政策立案から参加することで行動へのコミットメントが高まる。 <p style="text-align: right;">など</p>	<p>意見交換会やワークショップ等、本市と様々な主体が対話し、様々な主体が施策や企画の立案・実施等に参加できる仕組みを構築してまいります。</p> <p>第2章2(1)③の「参加」の仕組みづくりに企画・立案段階からの参加を加筆するとともに、市民参加についてコラムで補足説明いたしました。</p>

(ウ) その他(うち8件)

主な御意見	本市の考え方
<ul style="list-style-type: none"> ・P11「分野別方針4」について、他の3つと異なり「具体的な取組」が記載されているが、なぜなのか。記載されている内容はとても重要だと思うため、もう少し目立つように記載してはどうか。また、環境教育や行動のインセンティブなど、様々な環境分野にまたがる取組であるため、他の計画に記載している内容も含め、1つにまとめてはどうか。 	<p>3つの個別計画の具体的な取組については、各計画において示すため、環境基本計画では、分野横断型の「方針4」を掲げ、具体的な取組を記載しています。デザイン含め、目立つよう、工夫しながら策定作業を進めます。また、環境教育や行動のインセンティブなど、環境分野にまたがる取組について、他の計画に記載している内容もまとめることについては、ページ数や文字数が多くなる懸念がある</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・今まで京都市は、各主体ごとの取組で進めてきたが、今後は、事業者の地球温暖化対策について、サプライチェーン全体における間接排出(scope3)に取り組む必要があり、各主体間の取組の促進を行うかが重要となってくる。このため、基本施策に「主体間の取組の促進」を入れる必要があると考える。 ・P15の「前向きな取組についての回答が停滞状況」という文章が分かりにくい。 <p style="text-align: right;">など</p>	<p>ことから、今後の計画改定の検討にあたり、参考とさせていただきます。</p> <p>各主体間の取組の促進に向けては、環境を考えた社会経済のしくみづくりを掲げるとともに、情報コミュニケーションの促進により、意見交換会やワークショップ等、様々な主体が対話できる仕組みを構築していきます。</p> <p>P15の「停滞状況」の記載を「横ばい状況」に修正しました。</p>
--	--

エ 第4章に対する意見（2件）

主な御意見	本市の考え方
<ul style="list-style-type: none"> ・P13「2 計画の推進体制」に審議会しか記載されていないが、P4にあるように、それ以外の分野との連携を進める体制は必要ないのか。 ・進捗状況の評価については、短期間では大まかな把握にとどめ、詳細な把握は5年ごとにするなどの効率化を検討してはどうか。 	<p>(2)の文章は、「環境行政の方針」に示す分野連携を示すものではなく、計画の進行状況の点検・評価への環境審議会の関わりを示しています。</p> <p>進捗状況については、条例に基づき、毎年度、環境審議会・部会への報告を行っています。御意見については、今後の検討の参考とさせていただきます。</p>

オ 計画全般・その他の意見（46件）

主な御意見	本市の考え方
<p>(計画内容に対する賛同意見)【8件】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・AIなど新しい技術を活用し、他分野とも連携することで、環境と経済の両方を良くしていこうとする姿勢に共感する。 ・「脱炭素・自然共生・循環型社会の同時実現」という方向性に賛同する。 ・「主観的指標」の内容に賛成。 <p style="text-align: right;">など</p>	<p>目指す将来像の実現に向け、基幹的業務の維持や、脱炭素、生物多様性、資源循環のシナジー・トレードオフを意識した一体的実施はもとより、他分野との連携やAI等の活用も含め、取組を進めてまいります。</p>
<p>(計画冊子に対する意見)【12件】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・写真やイラストで内容を伝えるなど、読み手が手に取りやすい紙面にしてほしい。 ・サーキュラーエコノミーやウェルビーイング、シナジー、トレードオフ、ラウンドテーブルなど、最近の言葉はイメージしづらい。 	<p>写真やイラストを活用するほか、コラムを掲載する等、市民の皆様手に取って楽しんで読んでいただけるような計画冊子を作成しました。</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・「～していただく」という表現は行政が考えた内容が正しく、そのとおり市民に行動してもらっただけという感じを持つ。 <p style="text-align: right;">など</p>	<p>「～していただく」という言い回しについては、市民が主体的に行動することも読み取れる言い回しに修正いたしました。</p>
<p>(啓発に関する意見)【4件】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たち一人一人に何ができるのかをたくさんの人にアピールしてほしい。 ・根本的な行動変容につながる政策をより一層重視してほしい。人の行動を「制限」するような行動だけでなく、「良い副作用」も積極的に発信してはどうか。 <ul style="list-style-type: none"> ・子ども・若者にも理解できるような「やさしい版」も今後作られてはどうか。 <p style="text-align: right;">など</p>	<p>各主体の役割や、具体的行動と効果を分野横断的に掲げる「主体別指針」を策定します。</p> <p>また、より多くの方に環境に資する行動をとり、環境保全の取組に参加するためには、自らの行動の成果を実感し、場合によっては、インセンティブ（動機付け）を付与することで、行動を促進することも必要になります。そのため、市民や滞在者の皆様が楽しみながら、また、事業者の皆様には環境に配慮した事業活動が事業の継続発展につながることを感じ、行動するよう、インセンティブや効果の実感を意識した取組の検討を進めてまいります。</p> <p>これら取組については、本市からの情報発信に加えて、各主体による情報発信を促進してまいります。</p> <p>子ども・若者に手に取って読んでいただき、理解してもらえる概要版等の作成を、今後、検討してまいります。</p>
<p>(その他意見)【22件】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「京都学藝衆」構想と、この環境基本計画とのつながりを出してはどうか。永年に渡って各分野で京都の環境保全を担ってきた方々は、実は京都学藝衆とも呼べるのではないか。 <ul style="list-style-type: none"> ・この30年の間で、環境がよくなったと実感している。特に、鴨川の水がきれいになり、また、放置ごみなども大きく減少している。これからも、京都の環境保全に力を入れてほしい。 <p style="text-align: right;">など</p>	<p>「京都学藝衆構想」については、環境分野に限らず、全庁横断的に掲げる構想であり、京都基本構想、新京都戦略において明記されています。それらの考えは環境基本計画にも含まれていると認識しています。</p> <p>目指す将来像の実現に向け、基幹的業務の維持や、脱炭素、生物多様性、資源循環のシナジー・トレードオフを意識した一体的実施はもとより、他分野との連携やAI等の活用も含め、取組を進めてまいります。</p>